

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101518		
法人名	社会福祉法人 紀三福祉会		
事業所名	紀三井寺苑	【ユニット名:】	グループホームⅡ号館
所在地	和歌山県和歌山市紀三井寺617-3		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気作りと利用者とのコミュニケーションを大事にし、その人らしく暮らして頂けるよう職員一人ひとりが利用者の思いや気持ちを表せるよう支援しています。又、利用者、家族様にとって居心地の良い環境作りにも努めています。自分では出来ずはして頂くように取り組み、機能低下を防ぐよう努めています。その人に合った買い物、散歩、外食、お茶会、ドライブなどで気分転換を図って頂けるように支援を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JijiyosyoCd=3070101518-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JijiyosyoCd=3070101518-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成26年1月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が運営する特別養護老人ホームに併設されⅠ号館の隣にⅡ号館が昨年4月に完成して入居者も増えている。夏祭りや秋祭りには法人全体で取り組み、たくさんの地域の住民が参加して、毎年盛大に開催される。また季節に応じた独自のイベントも開催している。地域の保育所の運動会には毎年参加して家族との交流も毎年おこなわれている。その人らしい生活を目指し、個々の能力を引き出せるように、日タリーダーを含め職員間で研鑽に努めている。入居者が気分転換を図るための外出の機会も多く持てるよう取り組み、自由に選択できるような支援を行っている。食事に関しても、その人の好みにも配慮して、入居者、職員と一緒に楽しく、明るい食事の場づくりに取り組む姿勢がみられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づいた介護サービスが提供できるよう、スタッフ会議または申し送り等で様々な意見を出し合い、サービスの向上に努めている。	グループホーム独自の理念を玄関の見えるところに掲げ、毎月の目標と共に朝のミーティング時、職員間で確認、その人らしさや自立支援を大切に、日々のケアに生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育所の運動会に参加させて頂いたり、地元の神社の秋祭りでは職員も一緒にお神輿を担がせて頂いたり、地域との交流を図っています。夏祭りやふれあい教室では地元の方をお招きし、利用者の方と一緒にイベントを楽しんでいます。	毎年、地域の保育所の運動会への参加依頼がある。法人主催のふれあい教室などは、地域にチラシを配布して、たくさんの参加を集い、地域の住民の交流の場になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所が実施している介護者教室にて、地域の方や家族様を対象に認知症講座を開催し、地域での認知症理解の広報に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の家族様、地域の民生委員の方、市の福祉担当の方などにご参加いただき、グループホームの在り方や現状の問題点などを話し合い、サービスの向上に繋げています。	Ⅱ号館が出来たことで参加してもらいやすくなっている。会議では地域包括支援センター、民生委員、家族を中心に活発に意見交換が行われ、出された意見や要望を今後のサービス向上につなげている。	他の地域の人の参加や、なかなか来てもらえない市の担当者にも声をかけて参加してもらえるような働きかけを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会への参加以外では、制度やサービスに関する問題点など分からないことがあれば、相談させていただいています。	毎回運営推進会議の参加依頼は出すが、参加には至っていない。市町村に出向く機会も申請や更新申請の事務的な用件で、相談する機会は殆んど持っていない。	事業所の実情を相談出来るような関係作りを普段から持てるような働きかけに期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊される方や帰宅願望の強い方もいらっしゃるが、安全に配慮しながら自由な暮らしを送って頂けるように取り組んでいる。	日中は玄関に鍵をかけないで、その人らしい生活を続けられるよう個別に対応して、不安をなくすような、声かけを行っている。安全確保のためのセンサー等を設置して、自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のためにも、スタッフのストレスを溜めないよう、問題があればすぐに話し合う機会を持つよう心掛けている。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：Ⅱ号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用されている方はいないが、今後を見据えて勉強会等で制度の理解を職員全体で深めていきたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定の際は、家族様が納得していただけるよう十分な時間をかけて説明を行い、家族様の要望や疑問点なども合わせて尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2月に一度運営推進委員会を行い、家族様や関係各所に参加を募っている。委員会で出された意見等はスタッフ会議で取り上げ、職員間でも共有しサービスの向上に繋げている。	運営推進会議、家族会議と、家族からの意見や要望が多く出るような環境づくりに取り組み、2か月に1回、便りを発行してホームでの様子や行事等を家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて業務や利用者に関することなど様々な問題点を取り上げ、職員個々の意見や提案を出し合っている。	職員の現場での意見等は個々に話を聞く雰囲気づくりを心掛けている。運営について会議の席で管理者、職員間で話し合い、毎日のケアに結び付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課にて職員個々の目標や考え方を把握し、それに応じた取り組みが出来るよう就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部署内で行う勉強会の他に法人内外で開催される講座、研修会にはなるべく多くの職員が参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他部署や他事業所への訪問を通じて、相互の連携強化やサービスの向上が実現できるよう取り組んでいる。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：Ⅱ号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問にてご本人様、家族様から生活上での要望や身体状況、病歴、生活歴等の聞き取りを密に行うことで、本人様が安心して暮らして頂ける体制を事前に整えています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様の要望のみに捉われず、家族様の気持ちや要望にもしっかりと傾聴し受け止めることで、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様からの聞き取りから、求められるニーズを確実に引き出し、それに応じたサービスを他サービスも含めて考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は業務のみならず、利用者様と生活を共にする立場で接することで、暮らしの中の問題点の抽出や信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から利用者様の様子や状態の報告等の連絡をこまめに取り、家族様からアドバイスや意見を頂くことで、共に支えあっていく関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は時間に制限なくいつでも受け入れており、地域や外部の方でも足を運んで頂きやすい環境作りにも努めている。	今までのつながりを途切れないように、本人の希望を家族に伝え、なじみの店での買い物や自宅で過ごすこと等に繋げている。また友達の訪問を受けたり、こちらから訪問したりすることにも個別に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や趣味を把握した上で座って頂く座席やグループ分けを行い、利用者同士のコミュニケーションがスムーズに行えるよう支援している。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：Ⅱ号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、その後の様子確認や相談等に応じ、アフターケアに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や口調の変化を見逃さず観察し、声掛けを工夫しながらなるべく利用者様本人から希望や意向を聞き出せられるよう努めている。困難な場合は家族様の情報を基に本人本位に検討している。	職員の日々のかかわりの中で入居者一人ひとりに担当者を決めている。本人の思いを表情からくみ取る努力をしており、個々の入居者の様子は、生活シートを使い職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族様からの聞き取り情報の他、生活歴シートや基本情報を基に本人のこれまでの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活シートを用いてその人の一日の行動パターンや言動を把握し、その中で本人の出来る事や問題点を抽出して現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく楽しみを持って生活を送って頂けるよう、本人や家族様の思いや意向を聞き、課題となる事を職員間で話し合い、介護計画の作成に活かしている。	24時間シートを活用し個別に対応し、また家族から生活歴を聴き取り、アセスメントして計画書を作成している。また、毎月入居者3名ずつ会議でモニタリングして計画の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者それぞれについて、生活の様子や心身の状況、課題に対するケアの実践などを随時記録している。ミーティングやスタッフ会議等でモニタリングを行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に柔軟に対応できるよう、施設看護師や訪問看護、主治医と随時連絡を取り合い連携体制の強化に努めている。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：Ⅱ号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会や老人会によるボランティアや警察や消防、教育機関などと協力し、安全に生活を送って頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族様が希望される主治医を自由に選んで頂いている。利用者の状態を随時報告することで医療機関との協力体制の強化に努めている。	基本的には本人、家族の希望するかかりつけ医となっていて、主治医との連携も図っている。緊急時の場合のみ通院介助しており、その都度家族には連絡している。月2回の協力医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師や訪問看護師と随時連携を取り、日々の健康管理や状態変化に応じた対応を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際には、施設での生活の様子や既往歴、生活歴などを正確に報告し、適切な処置がスムーズに行われるよう連携体制を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、本人様、家族様、主治医、看護師などと契約時など早い段階から話し合いを行うようにしている。本人、家族の意向を踏まえた上で、医師、看護師、介護職員が連携し、チームとして支援に取り組んでいる。	看とりに関しては、将来に向けてスタッフで話し合っている、重度化した場合、併設の特別養護老人ホーム入所の支援も行っている。緊急の容態変化については協力医療機関の医師や看護師と連携を取りながら、家族の意向を聞きながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の訓練や、疾病に応じた初期対応の勉強会を定期的に行い、急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により避難訓練や救命救急の講習会を設けている。職員1人一人の災害時の役割分担を決め、家族様にも災害時の対応について説明している。	避難訓練は年2回法人全体で行っており、災害時には隣の法人施設は地域住民の避難場所になっている。災害時の対応については運営推進会議で家族にも常に説明している。	減災の為にもグループホーム独自の避難訓練を行ったり、地域住民の協力のもと、避難訓練が実施できるように地域に働きかける事を期待する。

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：Ⅱ号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレへの声掛け時などは耳元で小さい声で行うなど、自尊心を傷つけないよう気を付けている。耳が聞こえにくい方には筆談を行い、プライバシーの配慮を心掛けている。	入居者の生活歴等にも配慮しながら、個々の人格を尊重し、声かけには十分注意を払っている。共同生活であるホームでの暮らしを支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物への同行を促したり、入用の物が無いか事前にお伺いしている。喫茶店希望の方は声掛けを行い、なるべく自己決定して頂けるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の時間の流れは決まっているが、食事を摂られる場所や時間、入浴の時間などは本人の希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の身だしなみのお手伝いや、入浴時の着替え、翌日に着る服などは本人の希望を聞きながら準備させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに利用者の嗜好を取り入れている。利用者の方の出来る範囲で調理の下準備や洗い物などを職員と一緒に手伝って頂いている。	メニューは何種類かの中から選択してもらう。食事は職員と一緒に食べ、介助が必要な人でも、なるべく自分で食べることが出来るように支援している。それぞれ役割を持ち、後片付けも自ら自主的に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活シートを用いて一日の水分量や食事の摂取量を把握し、脱水や塩分過多等にならないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、夕食後に口腔ケアの支援を行っている。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：Ⅱ号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活シートにて一日の排泄パターンを把握し、トイレへの声掛け誘導を行っている。過度な支援は控え、なるべく自己にて行って頂けるよう支援している。	生活シートと排泄チェック表を活用して個々の排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した声かけで、トイレに誘導している。そのため、おむつを使用している人は少なく、気持ちよく排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表から排便状況を把握し、乳性飲料やヨーグルトなどを毎日提供することで、スムーズな排便を促している。運動も定期的に行い、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望される入浴日や時間に添えるよう支援している。入用剤や湯船でのマッサージなどを行い、入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	個々希望の時間に合わせて、入浴できるように配慮している。入浴を拒む場合は時間差をつけ声かけするなど、その人に合った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の方がそれぞれ好きな時間に好きな場所で寛いで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに服薬シートや既往歴一覧を閉じており、職員全員が内容を共有・把握するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や能力に応じたレクリエーションや行事を実施し、本人の意思で自由に参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブやお散歩、買い物等、職員付添にて外出する機会を設けている。また家族様にも協力して頂き、一時帰宅やお食事など家族での外出も行っている。	希望者には月1回の夕食や、ミュージカル、カラオケ等と外出する機会を設けている。また個別の買い物や外出の支援もおこなう。家族の協力で外出や帰宅に繋げている。	

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：Ⅱ号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在6名の方が金銭を自己管理されている。希望があれば職員付添にて、又は職員が買い物代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人又は家族の希望があれば電話を繋いだり、耳の遠い方には職員が変わりに電話で要件を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのテーブルには新聞や雑誌を置き、玄関にはお花や季節の飾り物、廊下には季節ごとの行事新聞や写真コーナーなどを設け、日常生活の中で季節を感じて頂けるよう工夫をしている。	天井が高く、明かり取りの窓に、柔らかい光が、差し込み開放的な空間になっている。季節感を感じてもらうために、その四季に合った飾り付けで生活感のある毎日を送れるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、居室、玄関前ロビーなど好きな場所で自由に寛いで頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋には今まで使われていた家具や生活用品などをそのまま持ち込んで頂くことで、不安を解消し穏やかに過ごして頂けるよう支援している。	居室はゆったりとした空間で、家族にも協力してもらい、本人の使いなれた、なじみの家具や写真、自分で作成した作品などで配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の配置を利用者の方に理解して頂けるよう支援し、安全に安心して生活していただけるよう支援している		